

平成29年度 第3号
平成30年3月15日発行

湖畔

北海道立大沼学園

〒041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

「無為の感化 ー凡夫の最大限の努力ー」

園長 三浦 辰也

私にとって今号は、平成27年1号より回を重ねて9号目の湖畔となりました。

第1号の題名は「芝蘭の庭に、芳泉を汲み、蛍雪歳を経て、晚翠深く、青雲湖上に映ゆ」としました。「読み人知らず」ではありますが、学園寮舎の名を配したものです。何とも味があり、読み手の心の有り様によって心象が果てしなく広がるようです。

複数年を掛けてしまいました。約四十項目に渡る学園内規の見直しを完了しました。平成9年児童福祉改正法により児童自立支援施設の義務となった通称「アフターケア」は、当園では「退園予後支援」と銘打っています。対象児童は原則家庭に戻った園生のみを対象としています。児童相談所の判断により他の施設で頑張っている「生きている園生」を「励ます亡霊」となってはいけないと判断し、他の社会的養護施設等で生活している園生は対象外としました。また、本年度はベテラン職員と若手職員のコンビで少年院に派遣しました。「帰るところがなければ帰ってこい」と。

2月、職員は昨年春に退園した園生を訪ねました。

共に小学生で入園した園生。大柄な寮担当職員の身体にすっぽりと隠れてしまうような小柄な兩名でした。1名は身長171センチと大きく伸びていました。家族との関係は殊の外良好です。家でのお手伝いや学校で取り組む除雪ボランティアも率先して行っているとのことでした。何よりも嬉しかったのでは「学園での生活は宝物」と言ってくれたことや「寮生活につきる。学園に行ったことを後悔していない。分校で行った宿泊研修や学園マナー講習でホテルで食べた中華料理や寿司などの外食、ルスツスキー学習」と。この2名は見事に「大沼学園の福祉的支援」、「大沼小中学校鈴蘭谷分校の教育実践」と「地域の支え」を言い当てているのです。訪問した若き職員らは自らの職責、職務が少年達の人生の支えとなっていることを感じ取ったに違いありません。

本号にも沢山の行事報告がなされています。行事が際立つのは平素の日常が維持されているからです。誰もが願う平穏な一日は数えるほどでした。この1年を振り返ります。大沼学園は発達障がいなどで生きにくさを感じている少年や虐待を受けた児童に対して無力であるばかりか敗北を喫したと総括せざるを得ません。日々研鑽を積んでいるはずの我々ですが効果把握の難しさ、焦燥や対職員暴力という形で向かってきた時の備えなど児童支援、運営組織全般に検討を加えねばなりません。子どもと大人。園生と職員。人と人。この関係で生じるもの。人知の及ばぬ時の背後の支え。先人は「無為の感化」と表現しました。児童も職員も含めてのことと思いますが、人の変容は人知の力では難しい。その力は創造主がお作りになった自然にあると確信し、よりこい願ったのです。

今は、芳泉を汲むことも、青雲湖上に映ゆる美しい情景も暫くはお返しせざるを得ません。我々は「専門家」と称されますが、所詮は「凡夫」の域を出ないのです。細い糸を手繰り寄せ、切らぬよう小さき門に到達せんがため最大限の努力を惜しんではならない。

これまでの学園祭もそうでしたが、今年度も児童は一生懸命準備に取り組み、本番当日には各学年、クラブとも素晴らしいステージ発表を披露出来ました。私自身は送迎の対応などがあり、直接ステージを観ることが出来たのは和太鼓のみでしたが、来客からも概ね好評で非常に嬉しく感じています。

携わっている和太鼓クラブは熊本先生が中心となり9月から児童への指導を開始しました。昨年から引き続いて「郷の音」の演奏を行うと共に、習字の部分を更に進化させ、演奏に合わせてその場で大きな模造紙に向かい、地域でお世話になっている方々や団体の名称を「席上揮毫」として書きあげるパフォーマンスを披露。その作品は現在正面玄関前の廊下に飾られています。また、大沼小の公演では地域住民の方々にもご案内し、より多くの方々に観ていただくことが出来ました。12月には毎年クリスマス会を開催していただいている国際ソロプチミスト函館の皆様へのお礼として、演奏させていただきました。いずれからも毎年進化していると褒めの言葉をいただくことが出来ました。来年度以降もより進化した発表を出来るよう、スタッフ一同励んで行きたいと思っております。



今年の学園祭はクラス発表と太鼓クラブと劇クラブによる発表で素晴らしい物になりました。ぼく達中三は、合唱、トーンチャイム、ダンスの3部構成で覚えるのがとても大変でしたが、学園祭当日には沢山の人が歓声をもらい終わった後にはクラス全体の団結力がまじったと思います。学園祭に向けた準備や練習は大変でしたが全て終わった後の達成感は格別のものでした。みんな、そして先生方、ありがとうございました。

中三 K

僕は今年で3回目ですが、どの学園祭も思い出になるものでした。今年も「TRF」ダンスを踊りました。僕はちょっと見えにくいところで、間違いがあり悔しかったです。それで、中学三年生もダンスを踊りましたが、レベルが違って感動したのが、思い出に残っています。クラブ発表では太鼓の演奏をして、今年は昨年と違って色々な場所に叩きに行ったり、学園を支えてくれる人からのメッセージをスクリーンに出してお客様にみせるようにしました。それで、僕は今年買ったばかりの大太鼓を叩くことになり、覚えるのが大変でしたが練習通りできてよかったです。

中二 K

招待行事～国際ソロプチミスト函館主催～ 福祉専門員 眞中 孝

今年も国際ソロプチミスト函館の皆様が、たくさんのケーキやお菓子、クリスマスプレゼントを持っていらして、クリスマス会を開いて下さいました。歌とピアノの演奏では、圧倒的な歌唱に驚き、ピアノの音色に静かに耳をすます子どもたちの姿が印象的でした。クリスマスプレゼント争奪のビンゴ大会は毎年恒例で、今年も頂いたプレゼントは、大切に扱っていました。

毎年工夫を凝らしたクリスマス会を開催していただき、子どもたちにとって大変貴重な機会を与えて頂けることに、心よりお礼を申し上げます。



今年も国際ソロプチミスト函館の皆様が素敵なクリスマス会を開いて下さいました。ソプラノ歌手とピアニストの方が来園し、ミニコンサートを行ってくれました。あまりの迫力ある声にみんな驚く顔が印象的でした。クリスマスプレゼントもいただき、大切にに使わせてもらっています。本当に楽しく良い思い出になりました。

中三 R

招待行事～伊藤亜希子ピアノコンサート～ 福祉専門員 眞中 孝

12月16日、伊藤亜希子後援会様の主催で、ピアニストの伊藤亜希子様のクリスマスコンサートが本園体育館にて開催されました。子ども達のリクエストで、タッチの激しい曲目をお願いしましたが、あまりの速さにびっくり驚いた顔があちこちで見られました。ティータイムではケーキとジュースを食べながら、伊藤亜希子様がBGMとしてピアノを弾いてくださり、いつもは騒がしい学園ですが、とても穏やかな一時を感じました。子ども達にとって大変貴重な機会を与えて頂けることに、心よりお礼を申し上げます。



僕たちの為にピアノコンサートを開いてくれて、みんなで楽しく歌ったりしてすごく楽しかったです。やっぱり普通の人弾くのとプロが弾くのでは全然違うなと思いました。みんなで食べたり、飲んだりもしてすごく楽しかったです。今回は、ピアノコンサートを開いてくれてありがとうございます。中二 Y

大沼小学校公演

福祉専門員 熊本 淳

盛況のうちに終えた学園祭の興奮冷めやらぬ11月21日(火)、七飯町立大沼小学校体育館にて文化系クラブの公演活動が行われました。今年は劇クラブは「RUN」、和太鼓クラブが「郷の音」という演目に挑戦しました。今回の『沼小公演』では、大沼小学校の協力を得て、新たな取り組みがいくつか実施されました。

例年行われていた、大沼保育園の園児と職員の方々の観覧に加え、今回からは大沼小学校の呼びかけで、大沼小学校の児童の保護者や地域の方々に観覧していただきました。

当日は、スライドによる学園生活の紹介と演目紹介のリーフレットを配布しました。また、演目発表のあとに、大沼小学校の児童からはお礼の気持ちを込めたステキな合唱が行われ、とても温かな雰囲気になりました。劇クラブ・和太鼓クラブそれぞれのメンバーは、緊張しながらも、練習した成果を発揮し、発表できたことで、達成感を味わうことができました。

現在、劇クラブ・和太鼓クラブの発表は、学園祭と『沼小公演』の2回のみですが、学園を離れ、大沼小学校へ出向いて発表させていただくことは貴重な経験となります。また、観客の皆さまが発表を観ている様子や、大きな拍手をしていただくのを見ると、園内における支援だけではできない、人と人の輪がつくり出す「環境」の力を感じます。今後も、このような機会と新たな取り組みが継続できることを願いつつ、改めて大沼小学校を始め、大沼保育園の皆さま、保護者・地域関係者の方々には心から感謝申し上げます。



僕は沼小公演で、劇クラブで先生の役をやりました。普段、常に同じ学園で生活している先生方はたくさんいるものの、その関係がとても身近だったので先生の身となって先生と同じ目線で物事を考えることはありませんでした。先生の役を演じる事で、より先生の大切さや、大変な思いなど色々と理解する事ができたので、それを日々の生活で生かして行きたいと思います。中二 S

もちつき

専門主任 狩野 宏邦

今回は、クリスマスの日に「もちつき」を行いました。和洋折衷です。前回の反省から待ち時間を短縮する工夫をしました。前半寮がそれぞれ「きなこ」と「あんこ」を、後半寮が「雑煮餅」を担当することにしました。また会食も一齐に行いました。しかし、全体で行うとどうしても待ち時間が発生しお餅も硬くなります。自分たちの食べるお餅は自分たちで作りたい、寮で温かいお餅をゆっくり食べたいという意見もあり、全体での実施と寮毎での実施はそれぞれ一長一短があります。



いろいろな考えや思いがあります。いずれにせよ、日本の伝統行事である「もちつき」をこれからも大切にしたいという思いは一緒だと感じました。

自分は、もちつきをして、とてもいい経験になったと思います。今までもちつきをやる機会はなく、もちを食べる時はいつも買って食べていました。でも、1からもちを作るということはめったにないことだと思います。やっている時、すごくおもしろかったです。いつかまた、もちつきをしたいです。

中二 K

今回もちつきは、体育館でやり、自分はここでもちつきをやるのが初めてで、どうやるのかわからなくて、芳泉寮が呼ばれて、餅米をねり、いよいよつくるとき、自分の番がきてうまくつけるか不安だったんですけど、いざやってみるとうまくつくことが出来たのでよかったです。

自分達がついたもちも、今まで食べてきた中で一番おいしかったです。

中二 S

百人一首大会

専門主任 西澤 幸裕

今年度は二日間の日程で百人一首大会を行うことが出来ました。初日は団体戦、翌日は個人戦と余裕を持ったスケジュールで試合も進み、連日熱戦でした。特に個人戦での準々決勝以降は札の差わずかの試合が続き、観戦する側もどちらが勝つかと熱くなる場面が沢山ありました。日頃寮で練習している成果がそのまま出せた児童、緊張しすぎたり相手が強豪で当日になかなか力を発揮することが出来ず悔しそうにしていた児童の姿もありました。読み手、審判、会場の準備や片付けなど各先生、児童に協力していただき無事に終わることが出来ました。この大会は伝統にふれると共に「集中力と協調性を養う」ことを目的として毎年実施しています。運動会やマラソン大会では目立つことが無かった、運動が決して得意ではない児童にとっても良い機会であったと思います。



昨年は優勝しましたが、今年は優勝は難しいと思っていました。今年は高校受験があるため、受験勉強ばかりに時間を費やしたので百人一首をする時間があまり取れませんでした。沢山練習している後輩達はどんどん札を取るのが速くなり、それをみただけでも厳しいと思っていました。でも、今年も優勝することができました。練習はあまりできなかつたけど、受験勉強の集中力が役に立ったのではないかと思います。

中三 T

今年の雪像制作は、海に関連した雪像が多くなりました。芝蘭寮のジンベエザメ、晩翠寮のワンピースのキャラクター魚人ジンベエ、職員有志によるメンダコ、などです。蛭雪寮は、毎年恒例の電車路線、アンパンマンのキャラクター、SLマンで会場の子どもの心を驚掴みにしてくれました。小学生は、トトロとミニオンと愛らしいキャラクターで、大沼湖畔を明るくしてくれました。児童、生徒が、寒い中1週間鼻水を垂らしながらもくもくと作業をしている様子を、周りの人たちはどのように見ていただけたらどうかと考えます。頑張っているだけではなく、楽しそうにやっているな。そう感じていただけるといいと思います。これからも地域やコンベンション協会、大沼合同遊船様のご協力のもと子どもたちと鈴蘭谷分校、大沼学園と一緒に大沼の冬を楽しく彩っていければと思います。



僕は今回初めて雪像づくりをしました。初めての雪像づくりは僕にとってすごく大切な事すごくいい経験になりました。僕は寮の生徒達みたいにスムーズに早く作業をすることはできなかったです。でも、自分には自分の仕事を自分なりに頑張るって決めていたのでそれをやり通せて、とても良かったと思います。今回の雪像づくりには1つ発見があって、力を合わせて目標に向かって行けばいい結果になることです。本当に自分にとっていい経験でした。

中一 K

招待行事～ワカサギ釣りとソリ乗車

福祉専門員 眞中 孝

雪像制作のお礼で、大沼合同遊船様よりワカサギ釣りとスノーモービルが引っ張るソリ乗車の招待をいただき、児童と職員で大沼公園まで出かけました。ワカサギ釣りは、ほとんどの生徒が0匹、1匹といった残念な釣果でしたが、ただ1人、中学1年のS君が2桁のワカサギを釣っており、驚いたりうらやましがられたりしていました。ソリ乗車も冷え込んだ寒い日でしたが、普段見ることのできない景色がとてもきれいで、子ども達にとって大沼の大きな思い出になったことと思います。大沼合同遊船様にはいつも本当に温かい支援を頂き、本当にありがとうございます。



わかさぎ釣りで学んだことは、1人のおじさんが教えてくれました。まず、人間は一人で生きれないことを教えてくれました。誰かに頼らずに自主的に学習に取り組み、と言っていました。おじさんの話を後々考えてみれば、確かにそうだな～と思いました。自主的に意欲的に学習に取り組むとそれだけ得るものは大きいと言っていました。よく考えてみると、この人達はとてもいい人だな～と思いました。

中一 S

心の里親会激励の集いー五島軒本店にて

福祉指導員 佐藤 勇介

平成30年2月25日、函館心の里親会、北海道新聞函館支社共催の中学卒業生激励会にご招待いただきました。最初は緊張した面持ちの児童も時間が経つにつれ表情もほぐれ、食事やバンド演奏を楽しんでいた様子でした。和やかな会に花を添えようと音楽の秋重先生と共に一生懸命練習に励んできた余興、「ウルトラセブン」も大変ご好評をいただき、万雷の拍手を頂戴することができました。児童も心から楽しんでおりました。様々な方々から激励を受けた後の児童の表情が心なしか頼もしく見えたような気がし、改めて子どもたちの成長を感じる事ができました。お忙しい中このような席を設け、招待して下さいった函館心の里親会の皆様、北海道新聞函館支社の皆様に心より感謝申し上げます。



僕たち、大沼学園鈴蘭谷分校中三生一同は、先日、函館心の里親会の皆様にご招待いただき五島軒で開催されました中学卒業生激励会に出席してきました。

僕たちを心から応援してくれていてとてもやる気と感謝の気持ちでいっぱいになりました。僕たちが大人になった時には、若い人を応援していきたいと思います。

中三 Y

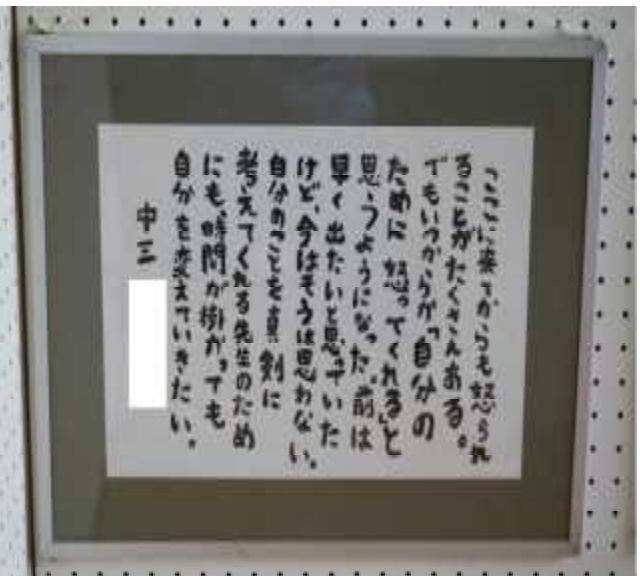
ご寄附食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(平成29年11月1日～平成30年2月) *敬称略
七飯大沼国際観光コンベンションセンター、会長 小泉真(七飯町) 澄マサノ(函館市) 佐藤隆三(七飯町) 村上貴史(函館市) コカコーラ社(七飯町) セイコーマート(札幌市) 大沼雪と氷の祭典本部(七飯町) 大沼コンベンション協会(七飯町) 風間麗子(神戸市)

編集後記

今年の冬は例年よりも降雪量が多く、寒さの厳しい日が続きました。大沼に長く暮らす職員からも、こんなに雪が多いのは初めてで、雪を捨てる場所がないと聞いたくらいでした。学園内の体育館横にも屋根から落ちてきた雪が高々と積もり、業者に依頼して除雪作業をしてもらいました。大沼に15年住んでいる私の記憶では初めての事です。この寒波や雪は日本各地にも甚大な被害をもたらしました。しかし、春の訪れは着々と迫ってきています。人生においても、いつまでも辛く厳しい状況が続くわけではありません。出口のないトンネルは無いように、必ずいつかは花咲く暖かい日（幸せな時）が来ます。大沼学園においても、生徒が落ち着かない。指示や注意が聞けない。常に騒がしく、けじめや切り替えが出来ない。生徒同士や職員とのトラブル。職員に対する反抗や悪態など、生徒集団が不安定で落ち着かず、学園職員や分校の先生方が日々の生徒の対応に追われ、大変な日々を過ごしました。常日頃、子どもたちと起居を共にしている寮職員は、我慢比べのような毎日を送り、苦闘と苦悩の日々を過ごし、すっかり疲弊したこともあったと思います。私自身、21時からの反省会を終えた後も受験生が夜間学習に取り組み、23時頃にはどの子どもも寝静まります。ようやく終えた1日にホッとして公宅に戻り、入浴をする時には全身の力も抜けて、大きく深呼吸をしながら、学生の頃に聞いていた“THE PRIVATES”の曲で『♪又、なんとか一日乗り越えた』という歌詞が頭を過ぎります。ようやく安堵の時間を迎える頃には、すっかり日付が変わっています。その後暫くしてから布団に入って幸せを感じるのも束の間、眠りについてもすぐに朝は来ます。また、新たな1日のスタートです。そんな日々を過ごしながら、いつまでこの状態が続くのだろうと思いつつ、日々悶々としていましたが、卒業や退園で、いざ生徒との別れの時を迎え、寮集団の人数がすっかり減ると、寂しさや不安の気持ちがこみ上げてくるのではないかと思います。それは日々の生活を共にしている寮職員は、特別大きく感じる事だと思えます。起居を共にすることで、目に見えない繋がりや子どもとの関係構築が持ちやすくなるのがメリットだった小舎夫婦制も、大変な状況になると逃げも隠れも出来ず、ただ単に嫌な時間や辛い場面向き合うしかなく、その場面状況を夫婦職員がじっと我慢するしかありません。そんな状況の中でも寮母の笑顔、職員の子の存在、退園生の存在は非常に大きいと感じます。教護の時代から良しとされてきた小舎夫婦制のスタイルも、近い将来変わる可能性もあるのではないかと感じてしまいます。時間や家族を犠牲にしながらも、子どもたちに向き合うからこそ産まれる目に見えない「繋がり」や「絆」といった事も、今の子どもたちには伝わりにくくなっているのも事実です。そんな子どもたちが、将来どんな大人になって、どんな人生を歩むのかは期待よりも不安の方が大きいです。それでも、私が初めて教護院で出会った素晴らしい寮長のお言葉で「裏切られても信じてやる事が一番大切」との言葉通り、いつか伝わるだろうと信じてあげていくことを大切にしていきたいと思えます。次年度も大沼学園にとっては、大きな1年になると思われます。学園を必要としている子どもたちのためにも、今まで同様に鈴蘭谷分校の先生方にもご協力をいただき、大沼学園がチーム一丸となって子どもと関わっていき、少しでも職員や子どもたちの笑顔の多い環境にしていければと良いと感じています。次年度以降も、各関係機関の皆様方、大沼学園に多大なる応援をいただいている皆様方、地域の皆様方、保護者の皆様方、今後とも変わらぬご支援のほど、よろしくお願い致します。



学 園 の 動 向

平成29年度【11月～2月】

- 11月3日 ・和太鼓クラブ
「里の音」作曲者佐藤三昭氏及び七飯男爵太鼓創作会（高橋里沙会長）から指導を受ける。
- 8日 ・学園祭全体練習
- 9日 ・全児協「東北北海道地区児童自立支援施設協議会専門部会」
真中福祉専門員出席（盛岡市、～11/10）
- 10日 ・学園祭総練習・会場準備
- 11日 ・学園祭前日準備
- 12日 ・学園祭
・施設見学
（浦臼町民生児童委員等11名）
- 13日 ・振替休校
各寮買い物訓練
- 15日 ・入園希望者見学
（函館児相後藤裕子児童福祉司付添）
・医診（かとうメンタル加藤知子副院长）
- 16日 ・支援会議
- 17日 ・財務事務実地検査
- 20日 ・運営会議
・ケースカンファレンス
函館児相：後藤裕子児童福祉司、飯山賢二児童福祉司、南部葵判定援助係長
バウムハウス：木本清史副施設長、鈴木孝明児童指導員
- 21日 ・大沼小学校公演
（和太鼓クラブ、劇クラブ）
・避難訓練
- 24日 ・児童施設見学（小関専門主任、斉藤専門主任付添）
- 27日 ・職員会議
・内科検診
（インフルエンザ予防接種1回目）
- 29日 ・釧路児相連絡協議会
- 30日 ・児童施設見学
（自立支援課長、小関専門主任付添）
・小5宿泊研修（～12/1）
・中学生期末テスト（～12/1）
- 12月3日 ・理髪
- 5日 ・全児協企画推進委員会（きぬ川学院）
真中福祉専門員出席（埼玉県、～12/6）
・施設見学
歌棄洗心学園：坂本明副施設長、佐々木里菜保育士、菅原武尊指導員

- 12月5日 ・保健福祉部独自研修「管理監督職員研修」自立支援課長出席（函館市、～12/6）
- 6日 ・運営会議
- 8日 ・児童面接
札幌市児相 山崎幸恵児童福祉司来園
・釧路家裁施設見学
栗生稔次席調査官、小川文調査官
- 11日 ・授業参観
- 13日 ・北海道教育大学函館校 講義
自立支援課長出席
・避難訓練
- 14日 ・支援会議
・北海道三施設協議会（向陽学院）
関口児童自立支援専門員出席（北広島市、～12/15）
・ピアノコンサート（於：体育館）
伊藤亜希子後援会主催
- 16日 ・内科検診・2計測
（インフルエンザ予防接種2回目）
- 18日 ・札幌市児相児童面接
- 20日 ・中谷麻衣児童福祉司来園
・携帯スマホ教室
- 21日 ・セイコーマートからクリスマスケーキ寄贈
・2学期終業式
- 22日 ・餅つき大会
- 26日 ・百人一首抽選会
・函館児相児童面接
城米剛児童福祉司来園
- 28日 ・一時帰省開始（～1/9）
- 29日 ・残留行事（スキー）
- 31日 ・残留行事（温泉入浴）



- 1月2日 ・残留行事（ボーリング、プール）
 4日 ・残留行事（映画鑑賞）
 6日 ・残留行事（初詣と温泉）
 8日 ・残留行事（スキー）
 9日 ・一時帰省終了
 10日 ・百人一首大会（団体戦）
 11日 ・百人一首大会（個人戦）
 14日 ・理髪
 16日 ・北海道児童施設協議会
 園長出席（札幌市）
 17日 ・医診（かとうメンタル加藤知子副院長）
 18日 ・児童面接（函館児相）
 ・職員面接（本庁子ども子育て支援課）
 19日 ・スキー学習（分校）
 22日 ・芳泉寮が休寮となる。寮生は他寮へ。
 24日 ・支援会議
 25日 ・中央児相児童面接
 阿部孝美児童福祉司、白川児童福祉司
 来園
 ・児童虐待防止職員研修会
 講師：北星学園大学栗山隆教授
 26日 ・スキー学習（分校）
 29日 ・「大沼函館 雪と氷の祭典」雪像製作
 （大沼公園地区、～2/2）
- 2月1日 ・室蘭児相経過診
 福浦直樹児童福祉司、新里徹判定援助
 係長来園
 3日 ・「大沼函館 雪と氷の祭典」見学
 5日 ・全児協第2回役員会
 園長出席（大阪市、～2/7）
 9日 ・スキー学習（分校）
 11日 ・理髪
 12日 ・招待行事（合同遊船）
 ワカサギ釣り体験、そり乗車
 14日 ・室蘭児相児童面接
 福浦直樹児童福祉司来園
 ・札幌市児相児童面接
 岡本つむぎ児童福祉司、石山博基児童
 心理司来園
 15日 ・東北北海道地区施設職員研修会
 関口児童自立支援専門員出席
 （盛岡市、～2/16）
 16日 ・スキー学習（分校）
 ・退園予後支援
 熊本福祉専門員、片石児童自立支援専
 門員家庭訪問の上児童等面接（～2/17）
 19日 ・施設見学
 北海道教育大学釧路校学生等15名
 20日 ・保健福祉部独自研修（社会福祉施設等
 実地体験）1班3名（引率含む）受け入
 れ（～2/21）

- 20日 ・避難訓練
 21日 ・保健福祉部独自研修（社会福祉施
 設等実地体験）2班3名（引率含む）
 受け入れ（～2/22）
 ・職員会議
 22日 ・中央児相児童面接
 永江友也児童福祉司来園
 ・支援会議
 ・中1～中2
 期末テスト（～2/23）
 23日 ・全児協東北北海道地区事務局引継
 秋田千秋学園深谷裕宣主幹来園
 25日 ・心の里親会激励会
 中3生参加、函館五島軒
 28日 ・第三者評価受審（～3/1）
 ・函館児相児童面接
 後藤裕子児童福祉司来園

